

美しい海ときれいな山それがぼくらの山田町 向き合おうごみ問題

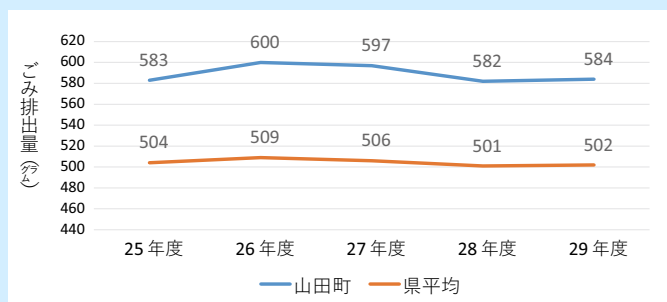
美しい海ときれいな山は山田町が誇れる大事な資源です。その資源を脅かすのがごみの問題。不法投棄を無くすことはもちろん、私たちの大切な海や山への負担を抑えることが重要です。一人一人ができる少しの工夫から、ごみ排出量の削減に取り組んでいきましょう。

1日に出すごみ
は約600⁴グラム

ごみの削減について考える前に、まずは私たちが一日に出すごみの量を確認してみましょう。下の図は一人1日当たりの家庭系ごみ排出量を示したグラフです。岩手県の平均は毎年約500⁴グラムで推移していますが、本町は600⁴グラム近い排出量となっており、県平均を上回る年が続いています。

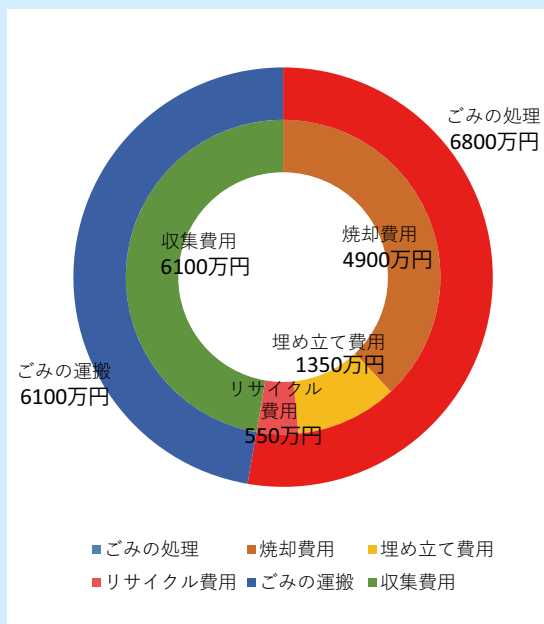
なお、平成29年度の数字で県内市町村と比較すると、32市町村中8番目に多い排出量となっていました。

◆一人当たりの1日のごみ排出量



(岩手県環境生活部「平成29年度版市町村別経年経過データ」)

◆ごみ処理にかかる費用と内訳



**金がかかる
ごみの処理**

排出するごみの量が
増えると、環境への負
荷がかかるだけではなく、その処理にお金が
掛かります。

まず一つはごみの運
搬。運搬回数が減れば、
その分費用は減ります。
もう一つがごみの処理。
持ち込むごみが減れば、
その分費用は抑えられ
ます。

理に掛かったお金は約1億29
00万円で、内訳は運搬費用が
約6100万円、ごみの処理費
用が約6800万円となってい
ます。これは町民一人当たり
に換算すると、1年間に約840
0円の費用が掛かっているこ
とになります。

燃えるごみを年間100ト減
らせば、町からの支出は約10
0万円少なくなります(注1)。
年間100トのごみの量を町民
一人当たりに換算すると、一
日約18グラム。一人ひとりの小
さな積み重ねが、大きな効果を生
みます。

(注1)他市町村の搬入量に変動がな
かった場合の、ごみ焼却に掛かる
負担金のみの試算(平成31年度予
算をもとに算定)

ごみ減量のポイ ントは生ごみ！

生ごみの重さのうち、約8割
は水分です。きちんと水分を
切ってごみを出すことで、重量
を減らすことができます。

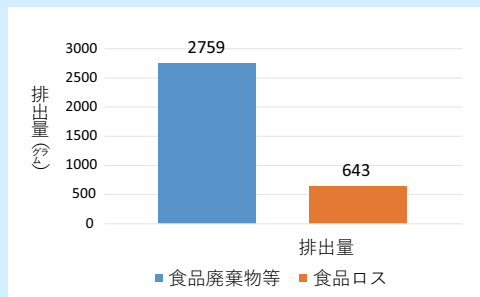
■水切りの方法

排水口や三角コーナーに溜
まった生ごみは、特に水分を含
んでいます。ごみ袋に入れやす
いように三角コーナーにネット
を装着して、生ごみをいれま
しょう。ポイントはすぐにごみ
袋へ入れないこと。水のかから
ないところに移して一晩置いて
おくだけでも水切りの効果があ
ります。また、水切り器がある
家庭は、使用すると効果が大き
いです。

少しの工夫で 食品ロス無くそう

「食品ロス」とは、食べられる
状態であるにもかかわらず廃棄
されてしまう食品のことです。
日本の食品廃棄物等の量は年間
約2759万トで、そのうち約
643万トが食品ロスと推計さ
れています(右下表参照)。国民
一人当たりに換算すると一日の
食品ロスは約14gとなります。

◆日本の食品廃棄の状況 (平成28年度)



(環境省「平成28年度推計」)

食品ロスを防ぐため、少しの
工夫から始めてみませんか。

■3010運動

宴会の時に『食べ残しが多い
な』と思った経験はありません
か。乾杯後30分間とお開き10分
前は、自席で料理を楽しむ「3
010運動」に取り組んでみま
しょう。

■すぐ食べるものは陳列順に

すぐに食べる商品は、賞味期
限や消費期限の長い商品を選
び、陳列順に購入することで、
食品ロスの発生防止につなが
ります。また、買い物の前に食
材の在庫を確認し、食材をむな
しないように意識しましょう。

■保存方法の検討を

食べきれなかった食品につい
ては、冷凍などの傷みにくい保
存方法を検討しましょう。

トビックス

捨てたごみはどうなるの？

〜ごみ処理の流れ〜

ごみ出し

分別したごみを収
集日に出します。

収集

分別されたごみはごみ
収集車で集められます。

中間処理

資源物は異物除去や圧縮・
梱包を行い、その他のごみ
は破碎や焼却処分されます。

最終処分

中間処理施設から出る
焼却灰は、埋め立て処
分場に搬入されます。

自然環境を破壊する卑劣な行為が止まりません

不法投棄から山田を守ろう



豊間根の田名部地区の不法投棄

町内各地で不法投棄が後を絶ちません。一部の心無い人により、山林や道路脇、河川などへごみが捨てられており、捨てられるものはたばこの吸い殻から粗大ごみまで実にさまざまです。

町民の皆さんが気持ちよく住める町にするため、そして子どもたちの未来に負の遺産を残さないために、不法投棄を許してはいけません。「自分さえよければ…」というマナーを欠いた身勝手な行動を許さず、私たちの手で町を守っていきましょう。

■有志による清掃活動も：

町内の自治会などでは、環境整備活動を行っています。豊間根環境衛生連合会（豊間根信会長）もその一つ。8月3日には、早朝5時から多くの人の協力のもと、一斉清掃活動が行われました。豊間根会長は「捨てる人は町外の人が多いのかもしれないが、地元でごみを処理しなければならぬ。看板などを立てて対策している場所もあるが、拾ったそばから捨てられており、



8月3日に行われた豊間根地区の清掃活動

良心に訴え続けるしかないのかもしれない」と、頭を抱えています。

■不法投棄から山田を守ろう

不法投棄を未然に防ぐためには、町民の皆さんの工夫や監視の目が有効です。次のようなことを意識し、出来る範囲で協力をお願いします。

- ▼定期的に雑草を刈る
- ▼小さなごみでもすぐに片づける
- ▼貸してある土地でも、時々状況を確認する

不法投棄は「犯罪」です。

ごみの不法投棄を行った場合「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、厳しく罰せられます。

5年以下の懲役もしくは1000万円（法人は3億円）以下の罰金

個人や事業者いずれも、定められたルールに従ってごみを適正に処理しなければなりません。しかし、中にはルールを無視して、山林や河川などに勝手に捨てる人がいます。この行為が不法投棄であり、絶対に許せない行為です。不法投棄されたごみは、自然環境や美観を損なうだけでなく、河川の水を汚染したり悪臭の原因となったりと、私たちの健康や生活、観光面にも悪影響を及ぼす恐れがあります。

■不法投棄の撤去には多くの手間や費用が掛かります。

■次の世代に快適な生活環境を引き継ぐためにも、不法投棄は絶対にしないでください。

◆問い合わせ先 町町民課環境衛生係（☎82-3111内線125、126）または宮古警察署（☎64-0110） へどうぞ。

海洋プラスチック汚染を食い止める ～『プラスチック・スマート』キャンペーン～

不法投棄などにより回収されずに、河川などを通じて海に流れ込む「海洋プラスチックごみ」。環境省では、海洋汚染を防ぐために、個人・企業・団体・行政などがそれぞれの立場で行う取り組みを応援する「プラスチック・スマート」キャンペーンを行っています。



海洋汚染の現状

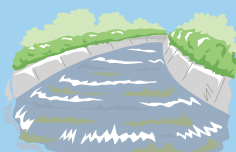
現在、プラスチックによる海洋汚染は深刻な状況となっています。平成28年にスイスで行われた世界経済フォーラムにおいて「2050年には海洋のプラスチックごみの量が魚の量を上回る（重量換算）」との試算をする報告書が出されました。海洋プラスチックごみの影響は大きく、世界各国でクジラの胃の中から大量のプラスチックごみが発見されています。日本でも昨年の夏、神奈川県鎌倉市の浜辺に打ち上げられたクジラの赤ちゃんの胃からプラスチックごみが発見されました。そのほか、観光や漁業への被害も想定されています。

汚染の原因

海洋プラスチックごみの多くが、陸上で出たごみです。国内外を問わず、不法投棄されたものが雨や風により河川に入り、海に流れ出てしまいます。海に流れ出たごみは、潮の流れや風の力によって遠くまで運ばれたり、海底に沈んだりして海を汚染します。



不法投棄されたごみ



雨や風によって、河川へ流れて海へ

私たちにできることは

プラスチックは分別すれば資源としてリサイクルすることができます。プラスチックごみの3R(リデュース・リユース・リサイクル)を進め、海洋汚染を山田町から防止していきましょう。

リデュース
Reduce
ごみを減らす

- ・マイバッグを利用する
- ・使い捨て容器の利用を減らす など

リユース
Reuse
繰り返し使う

- ・詰め替え用品の利用
- ・フリーマーケットなどを活用する など

リサイクル
Recycle
再生利用する

- ・きちんと分別する
- ・再生プラスチック製品を利用する など

私たちは毎日のようにプラスチックを使っており、生活に欠かせないものです。だからこそ有効に利用し、賢く付き合っていかなければなりません。日々の暮らしの中で少しずつ意識して実践してみませんか。



柳沢地区の海岸へ漂着したごみ



浦の浜海水浴場にもペットボトルなどが流れ着きます